

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 部 1 年 2 部 2 年	子どもの保健	吉賀 成子	
サブタイトル	成長発達や病気などを通して子どもをよく知る	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
1. 目的：子どもの保健の基本的知識を学ぶことで、保育所、幼稚園、教育現場でその知識を役立てる応用力を育成することを目的とする。			
2. 到達目標：			
1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。			
2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。			
3) 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解できる。			
4) 子どもの疾病とその予防方法及び適切な対応について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 専門知識を身につけ、実践的に考察する。			
2. 幼児教育の専門性を高め、理論と実践力を学ぶ。			
授 業 の 方 法			
1. テキスト「わかりやすい子どもの保健 第三版」を利用して授業を進める。			
2. スライドを使用した講義形式となるが、可能な範囲で書き込みする形式の資料（プリント）を配布する。			
3. 厚生労働省等の関連ガイドラインを利用し、教材を補う最新の知識を得られるようにする。			
4. 授業の終わりにリフレクションシートを記入、提出していただき、その内容を基に次の授業の始めに質疑応答するなどアクティブ・ラーニングも念頭に置いて進める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：『わかりやすい子どもの保健 第三版』西村昂三・松浦信夫・原田正平編著 同文社 2018 年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
授業の終わりに提出するレポート（リフレクションシート）を 10%、定期試験の成績を 80%、アクティブ・ラーニングなど授業への貢献度を 10%として総合的に評価する。		定期試験	80%
		レポート	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. テキストは毎回持参すること。シラバスを参考にして、次の授業の該当箇所を読んでおくこと。特に、聞き慣れない専門用語などについての理解度が違ってくる。			
2. レポート（リフレクションシート）には授業で理解が難しかったこと、質問事項を書き提出する。			
3. 授業中の私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用禁止は当然であるが、授業開始 5 分前には着席し、私語・飲食・携帯（スマホ等）の使用は止め、授業を受ける姿勢を取るようにすること。			

科 目 名 子どもの保健

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	ガイダンス 子どもの保健の意義、最近の問題点と子どもの保健の範囲について学ぶ。	授業の受け方、授業中の態度、子どもの保健学を学ぶ意義を理解する。
2 回	子どもの環境と健康 妊娠～胎児～新生児、出生～乳幼児期の育児環境と健康について学ぶ。	生活・環境と子どもの健康について理解する。
3 回	子どもの成長と健康 正常な成長パターン、成長の評価、低身長、成長障害、子どもの体重評価について学ぶ。	子どもの身体的発育および評価について理解できる。
4 回	子どもの発達と健康 運動機能の発達、神経細胞、原始反射、発達の進み方について学ぶ。	子どもの発達について理解できる。
5 回	生理機能の発達と健康 子どもの生理機能の特徴（臓器の発育、水分代謝、呼吸、循環など）について学ぶ。	子どもの生理機能について理解できる。
6 回	子どもの栄養 栄養学の基礎および乳児、幼児、学童期以降の栄養について学ぶ。	栄養学の基礎および乳児、幼児、学童期以降の栄養について理解できる。
7 回	感染症の予防 感染症とは、感染症の成立と発症、感染予防、感染予防の手段、予防接種、学校保健安全法における出席停止基準について学ぶ。	感染症の予防について理解できる。
8 回	感染症 細菌とウイルス、代表的ウイルス疾患、代表的細菌感染症について学ぶ。	子どもの感染症について理解できる。
9 回	よく見られる病気① 先天異常・循環器疾患・呼吸器疾患の特徴、治療法などについて学ぶ。	子どもの循環器疾患、呼吸器疾患などについて理解できる。
10 回	よく見られる病気② アレルギー疾患・神経疾患・内分泌疾患の特徴、治療法などについて学ぶ。	子どものアレルギー疾患、内分泌疾患などについて理解できる。
11 回	よく見られる病気③ 腎疾患・消化器疾患・血液疾患の特徴、治療法などについて学ぶ。	子どもの腎疾患、消化器疾患などについて理解できる、
12 回	よく見られる病気④ 皮膚・骨・眼・耳・鼻・歯の病気の特徴、治療法などについて学ぶ。	子どもの皮膚・骨などの病気について理解できる。
13 回	子どもの事故対策 子どもの死亡原因、不慮の事故の年齢別の種類、事故の予防対策、保育園での事故要因、保育園におけるリスク管理、ヒヤリ・ハット・インシデント、事故発生時の対応、心肺蘇生法について学ぶ。	子どもに多い事故とその対策について理解することができる。
14 回	子どもの保健対策、母性健康対策、新生児対策（新生児マスキリーニング等）、乳児対策について学ぶ。	保健行政およびマスキリーニング等について理解できる。
15 回	まとめ 演習問題を通して、授業全体の振り返りを行う。	小児保健学の全体像を理解し、自己学習する技能等を獲得できる。